

令和元年12月15日発行

RIKKO SEKAI No.1083 力行世界 令和元年12月15日発行 (1)

2019年
12月号

年4回発行(1. 4. 7. 10月号)

No.1083

(学)日本力行会

力行世界

R I K K O S E K A I



第86回「力行祭」記念式典(2019年11月3日)

創立1897年1月1日



目次

第86回 力行祭 ……………2～4	会館生バス旅行…………… 10
2019年秋学期・ ウェルカム・パーティー ……………5	力行国際交流サロン「茶道交流会」 …………… 11
りっこう幼稚園だより…………… 6・7	江古田キャンパスプロジェクト…………… 12
りっこう学童クラブ…………… 8・9	力行だより…………… 12

日本力行会恒例行事 第86回 力行祭

—11月3日（文化の日）に実施—

日本力行会の恒例行事である「第86回 力行祭」が、去る11月3日（日）の文化の日に開催され、多くの関係者や近隣の方々と賑わい、大成功のうちに幕を閉じました。

「力行祭」は、会員会友の逝去を偲ぶ記念式典及びりっこう幼稚園PTAによるバザーと模擬店から構成され、

特に園庭及び園舎にて執り行われているバザー及び模擬店会場には朝早くから多くの方が集い、手作り品やゲームコーナー、お食事処のブースなどに長蛇の列ができ、幼稚園児及び卒園児有志で構成されたチアリーディングが会場に華を添え、休日のひとつを皆でお祝いする楽し

い雰囲気醸し出していました。

今回の力行祭開催に当たり、多くの関係者よりご支援賜ると共に、早い段階からご準備を頂いたりっこう幼稚園PTA 力行祭準備委員会委員や、おやじの会の皆様ほか、ご協力を頂いた皆様に心よりお礼を申し上げます。

記念式典

記念式典は、ご来賓、関係団体及び当会役員・会員のご臨席の下、肅々と進行、まず最初に村上悦榮理事長より、出席者に式典参加のお礼を述べると共に、新しく発行される1万円札のデザインに選ばれた渋沢栄一氏と当会との関係について、現在の力行会の在る小竹町に移るきっかけとなった海外学校設立と敷地確保に於いて、資金面を含めて渋沢栄一自らが先頭に立ってご尽力された話題に触れ、新しい令和時代と、当会の歴史の因果について述べられました。



村上理事長

続く記念礼拝にて尾山清仁牧師による、神と人との関係を羊飼いと羊に例え、人生での「死の影の谷」を通るときも、神と共にあり、恐れることはない、と説いた詩編23篇と、この詩編に出会えたことでその後の人生が大きく変化を遂げた当会との関わりのある新渡戸稲造氏の人生のパラドクスについての記念講話を拝聴、併せて本年度の会員・会友逝去者の報告と祈禱を執り行いました。

ご来賓を代表して、二川竹美小竹町会副会長からは、自ら当幼稚園の



尾山牧師

卒園生であることと当時の園の様子、さらに町会とのますますの交流と発展についてのお祝いが述べられ、また、佐藤正文小竹小学校長からは、当会100年誌よりみた歴代小竹小学校長と力行幼稚園との古くからの関わりについての報告と今後とも変わらない交流が続くことを期待する旨の祝辞が述べられました。



記念演奏会

昨年度より実施されている式典2部構成の、第2部にあたる記念演奏会では、昨年同様に、近隣の武蔵野音楽大学に協力要請をお願いしたところ、今年もご快諾頂き、無事取り行うことができました。

今年は、昨年実施された管楽器演奏とは異なり、しっとりかつ和やかな音色の弦楽器演奏となり、武蔵野音楽大学卒業生有志による弦楽四重奏を楽しむことができました。

最初は、大変厳かな「愛のあいさつ」から演奏が始まり、ディズニー音楽やジブリ映画音楽と大変親しみやすいポピュラー音楽演奏となり、ラストはラテン音楽やアップテンポの演奏になり会場は大いに盛り上がり、アンコールはディズニーの名曲「小さな世界」で大盛況のうちにフィナーレを迎えました。

特に、第1バイオリンを担当された中野夏美氏は、武蔵野音楽大ヴァイオリン専攻を首席で卒業された腕の持ち主であり、彼女の奏でる姿とヴァイオリンの音色はまさに芸術的で、会場の参加者からは大絶賛のお声を頂きました。

大好評の記念演奏会は、来年度も実施予定ですので、是非ともご期待下さい。



中野夏実さん



室井絵里さん



伊澤郁奈さん



佐藤遥香さん

【曲目】

愛のあいさつ
カノン

ホールニューワールド
美女と野獣

となりのトトロ
カントリーロード

リベルタンゴ
情熱大陸
チャルダッシュ

園庭・園舎バザー風景スナップ集



力行祭

ゆり組 寺田麻理



11月3日、穏やかなお天気に恵まれ力行祭を開催しました。

5月からPTA役員、力行祭委員の父

兄が中心に、在園児の保護者の方々が全員参加で準備を進めて下さいました。

力行祭は、全ては子ども達の為に、子ども達の喜ぶ顔が見たいから、とお母様方の愛情を感じられる行事のひとつです。そして毎年おやじの会の全面的な協力もあり、当日は大勢のお客様に来園して頂けました。

日頃からお世話になっている近隣の方をはじめ、卒園生が沢山遊びに来てくれて、再開を喜

び合うことが出来ました。

お客様の中には20年前に卒園された保護者の方が遊びに来て下さり、私達職員も懐かしく思い出話に花が咲く暖かいひと時を過ごす事ができました。園舎内は毎年大人気な手作り品、ゲームやプラ板、スライム等子ども達が楽しめる模擬店があり、どの模擬店も子ども達や接客して下さいのお母さんお父さんの笑顔で溢れていました。園庭では、毎年人気なパンやおにぎり、おやじの会による焼そば、フランクフルト、職員の作る豚汁、今川焼、かき氷も大盛況でした。

お昼過ぎにはバーナーズによるチャリーディングも中庭で行われ、沢山の笑顔が見られる1日となりました。



2019年秋学期・ウェルカム・パーティー

9月14日(土)の午後、秋学期入館生へのウェルカム・パーティーを開催しました。

当日は、中国11名、アメリカ、ブラジル各7名、ドイツ5名、フランス2名、オランダ、コロンビア、ポリビア、香港、メキシコ、ポーランド、インドネシア、スウェーデンから1名ずつと、日本語ボランティアの先生方と息子さん、お嬢さん達、事務所職員5名の総勢57名が参加しました。



各国語で乾杯!!

はじめに、事務局長からの挨拶、そして、日本語ボランティア関係者、職員より自己紹介、その後、来日中のブラジル力行会の岡崎会長よりご挨拶を兼ね乾杯の音頭を取って頂き、その後、課長の合図のもと、恒例の各国語での乾杯をしました。

テーブルいっぱいには並べられた、お寿司、ピザ、唐揚げ、フライドポテトのオードブルやスナック菓子を、歓談しながら一通り美味しく頂いた後、応援に駆け付けて下さった武蔵大学の応援団、チアリーダーの皆様より、演技を披露して頂きましたが、初めての経験に皆、とて

も感動している様子でした。その後も食事の続きをし、手が進まなくなった所で、テーブルの片付けを皆にも協力して貰いました。



応援団



チアリーダー

その後、じゃんけん列車ゲームの説明をし、新しい会館生と、先輩会館生、ボランティアの先生方、お子様達と一緒に、自己紹介を兼ねたゲームは、大盛り上がり、2回行われましたが、両回共、優勝者はボランティアの先生方のお子様だった事に皆驚きましたが、皆、拍手でお祝いをし、表彰式でプレゼントを渡された二人は、恥ずかしそうにしながらも、とても喜んでいました。



じゃんけん列車ゲーム

最後は、記念撮影をし、閉会となりましたが、いつも通り、皆で後片付けをし、残ったお料理を、お土産に渡しました。



全員集合

今回、ご協力頂きました、日本語ボランティアの先生、管理人ご夫妻、そして参加の皆様にご心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、武蔵大学応援団1回生 田村翼様と、会館生の Holly Thompson さんより頂きました感想文をご紹介します。

「力行会」とは、大矢さんから度々話は聞いていたので、留学生に関する何かであることは知っていたが、詳しくは知らなかった。

中国からの留学生だけだろうと勝手な想像をしていた私は驚いた。もちろん中国からも来ていたが、それだけでなく世界各地から色々な人が来ていた。乾杯の音頭は留学生たちの出身地の言葉でとった。

私は今回初めてリーダーを務めた。リーダーとは中央で演技をする一番目立つ人であり、1回生がやることはまずないが、今回は特例で務めた。かなり緊張し所々間違えたため落ち込んでいたが、終わったあと留学生たちが「良かったよ」と言いに来てくれたので励まされた。

私も一度アメリカへ行ったことがあるのでなんとなくわかるが、異国とは不安の塊である。自分の言葉がどこまで伝わるかわからない、知り合いができるだろうか、そんな不安の中、他者を励ますことができる留学生たちの温かさに感動した。

田村翼 (武蔵大学応援団・1回生)

“Welcome Party Writeup”

The Rikko Kaikan welcome party occurred on September 14, 2019. Both Japanese and international students enjoyed an assortment of pizza, fried potatoes, fried chicken, and sushi. The Rikko Kaikan staff and caretakers introduced themselves and their children to the attendants, and the party began. Among the residents of Rikko Kaikan were the Musashi cheerleaders and the Ouendan, who intermingled among the guests. After a while of socializing and making new friends, the Ouendan were called to the stage, where they began their spirited performance, accompanied by a large bass drum. After their performance, the Musashi cheerleaders took the stage, where they performed their carefully choreographed routine. When the applause died down, both the cheerleaders and the Ouendan joined together with the crowd to sing the Musashi school anthem. They encouraged the crowd—students and staff alike—to join in. After a final round of applause, the performers took their final bows and left the stage. For a while, guests intermingled until the next activity was announced.

When guests initially arrived, everyone was handed a five yen coin on a string to wear around their neck—the purpose a surprise. However, towards the end of the party, the staff announced that a game of “rock, paper, scissors,” or “janken,” would be played. At first, participants were nervous to begin playing, but when the music started, everyone soon joined in on the fun. Guests began laughing, dancing to the music, and overall enjoyed themselves until the victor was decided—both times, two small, endearing children. At the end of the party, guests were allowed to take the leftover food and drinks back to their rooms and with full stomachs and full hearts, the party was over. While I was at the party, I heard many people meeting and making plans to spend time together. This event allowed strangers to come together, and leave as friends.

Holly Thompson (武蔵大学・アメリカ)

りっこう幼稚園だより



敬老会

もも組 樋川恵子



9月11日、晴天に恵まれ青空のもと、敬老会を行いました。



おじいさんおばあさんに礼拝堂に一度お集まり頂いて子どもたちの普段の園生活の様子について園長先生からのお話を聞いていただきました。その後、



各クラスに入っていました。待っていた子どもたちは、おへやに入って来て下さるおじいさんおばあさんに手を振る子、照れる子、様々でした。対面式に座ってまず「今日は来られない方もいらっしゃるので皆のおじいさんおばあさんになって下さい」とお願いをしてクラスの会が始まりました。「どちらからいらしたのですか?」「お孫さんから何と呼ばれていますか?」の質問にお一人ずつ応えて下さいました。「茨城からです」「兵庫からです」の答えに「わあ」と歓声が上がったり「幼稚園のすぐ近くから来ました」のお返事に笑顔になったり和気あいあいと会が進みました。年少の子どもたちも興味津々で静かに聞いていました。その後かわいい「きのこ」のであそびをしたり、キッズ体操を元気に踊る姿を見て頂きました。そしてお楽しみ、おやつので

りーと一緒に頂きました。特別なおやつに子どもたちは目を輝かせておいしそうに食べていました。

帰りの集まりでは「きんぎょがにげた」の絵本をおじいさんに読んで頂きました。1ページ1ページ子どもたちの反応を見ながら言葉をかけて下さり優しい雰囲気に包まれました。



短い時間でしたが喜んだり緊張したりしている子どもたちのありのままの姿をおじいさんおばあさんが愛情たっぷりに見つめていらっしゃるところが印象的でした。私も心が温くなるひとときになりました。

これからもおじいさんおばあさんといろいろな場面で関わってたくさんの愛情を受け、心豊かに大きくなって欲しいと願っています。



運動会

ゆり組 馬上朝子



10月6日運動会を行いました。時折雨の降る中での開催でしたが、この日に向け、友だちと力を合わせる、自分の力を信じてチャレンジすること、そして、友だちと楽しんで取り組むことを胸に、毎日練習を重ねてきた子どもたち。雨にも負けず、それぞれの精一杯の力を出す子どもたちの姿は微笑ましく、時に胸が熱くなりました。ももぐみは、初めての運動会で、友

だちやお家の方と一緒に取り組む楽しさを味わえたようでした。すみれぐみは、綱引きでは、友だちと力を合わせる楽しさを味わい、マット運動では自分の力を信じ、挑戦することが出来たことでしょう。ゆりぐみは、幼稚園最後の運動会。友だちを信じて取り組んだ組体操、クラス全員でバトンを繋

いだりレー。どうやったら上手く出来るのか、1位になれるのかを各クラス話し合い、練習を重ね、日に日に気持ちは高まっていきました。3年間で培った一人ひとりの力と友だちとの絆が何倍も大きくなり、頼もしい姿を見せてくれました。

最後に閉会式で先生から金メダルをもらおうと、満足そうな笑顔が見られ、大切そうにのぞき込んだり、友だちと



見せ合って喜び合う姿がみられました。一人ひとりが、楽しかった！頑張った！と達成感を味わえたのでは

ないでしょうか。

お家の方から、たくさんの拍手と熱い声援をもらい、大きな自信をつけ、

また一回り大きくなった子どもたちが、これからもたくさんのことに挑戦していけるよう願っています。



収穫感謝祭

もも組 松尾涼子



11月11日に収穫感謝祭と芋煮会を行いました。

収穫感謝祭では家から持ってきたみかんを礼拝堂の祭壇に1人ずつお捧げし、食べ物のお大切さや自然の恵みに感謝しながら礼拝をしました。



子どもたちが朝から楽しみにしていた芋煮は、家から野菜やキノコを持ち寄り大鍋いっぱいになります。集めた食材をクラスごとに園庭に持っていき

「よろしくお願ひします！」とみんなで大きな声でお願ひしました。

外あそびの時間にはいい匂いにつられて大鍋の周りには代わる代わる子どもたちが集まり「もう出来る?」「いいにおい〜。」と、心待ちにする様子が見られました。



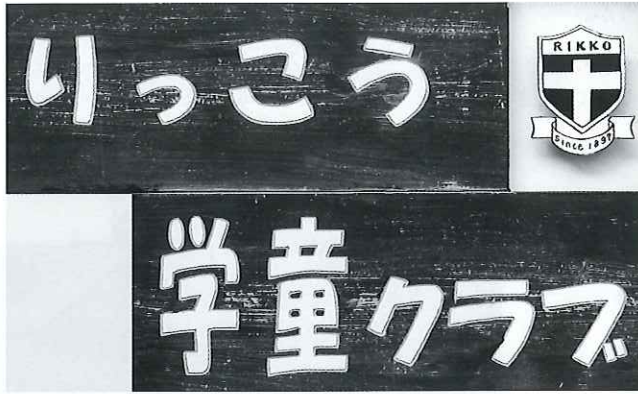
お待ちかねのお弁当の時間になり、あつあつの芋煮がクラスに配られ、持ってきたおにぎりやみかんと一緒に

「いただきまーす!」。「おいしいね!」「たくさん食べよう」と笑顔があふれ、友だちと一緒に味わう芋煮の味は格別だったようです。何度もおかわりする子、ちょっと苦手な野菜を頑張って食べる子…様々な姿があり、それぞれに芋煮を味わうことが出来ました。



日々多くの恵みを下さる神様や秋の実りに感謝し、友だちと一緒に味わう楽しさや嬉しさを共有する温かいひとときとなりました。

これからも、神様からの自然の恵みに気づき、感謝しながら過ごしていきたいです。



水遊び

夏休みの大イベントである水遊びを今年も行いました。「りっこう学童クラブで過ごす1年間で何が一番楽しかった？」と尋ねると、「水遊び！」

と答える子どもが多く、人気のイベントの一つです。

水遊びの日が近づいてくると、「もうすぐ水遊びだ!!」と言いながら期

待に胸を膨らませている子どもたちの声が多く聞こえてくるようになります。

楽しみにしていた水遊び当日。透き通った青空が広がり気温もちょうど良く、待ちに待った水遊びを行うことができました。子どもたちは、朝からテンションが高く、はしゃぎ回り、落ち着かない時間を過ごしていました。

昨年は500個の水風船を作って遊びましたが、今年は子どもたちが増えたので、さらにグレードアップして、水風船は1500個に、水鉄砲も昨年より2倍に増やし、水風船を投げ合ったり、水鉄砲で水を掛け合ったり、びしょ濡れになりながら盛り上がっていました。

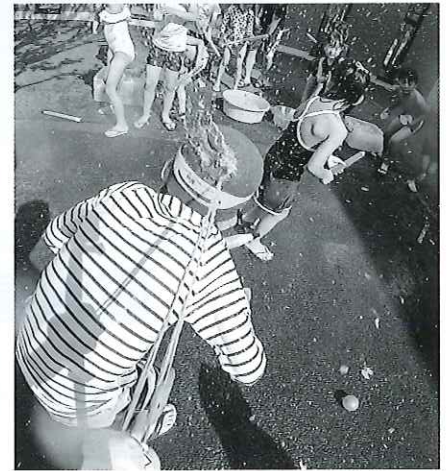
水遊びの後はスイカ割りも行い、夏休み最後にして最高の笑顔を見ることができました。



水遊びに夢中



水風船がいっぱい



水鉄砲が…

鉄道博物館の見学会

10月1日、東京都民の日で小学校が休日でしたので、学童クラブでは鉄道博物館へ見学に出かけました。鉄道博物館は大宮駅より少し先にあり、少々長い距離の移動でしたが、子どもたちは電車の中でもルールをしっかり守っていました。

博物館の中に入ると、そこは巨大な車両展示スペースになっていて、子どもたちが見たことのないひと昔前に使われていた車両が展示されていた

り、現在使用されている新幹線が展示されていたりと子どもたちにとってすごく魅力的な空間でした。

実際に乗って座席に座ることもできるので、「あっちの電車に乗ってみよう!」「今度はこっち!」などと言いながら、友達同士で探索し、目が輝いていました。中には、電車に



壮大なジオラマ

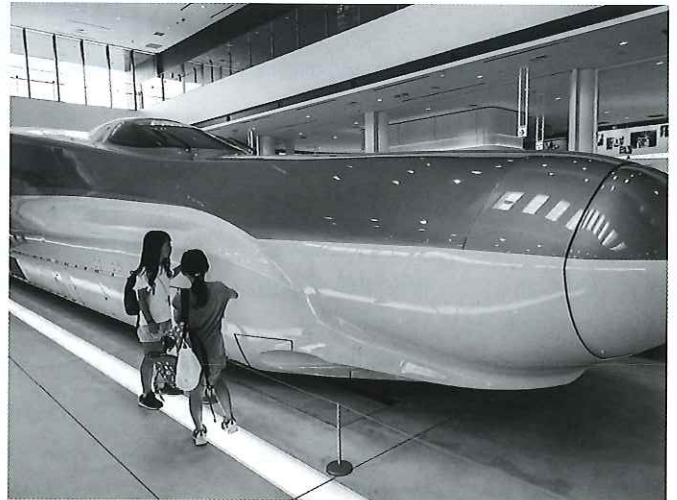
ついでに説明書きを読んで「この電車は明治天皇が乗るために作ったんだって」と新しい発見をした子もいま

した。
現在、東北新幹線で使われている「E5系 はやぶさ」も実際に触ることが

でき、普段できないような体験ができました。



引退した車両の前で



東北新幹線「はやぶさ」

ハロウィンパーティー

10月30日、学童クラブでも1日早いハロウィンパーティーを行いました。この日のために、魔女やドラキュラの黒いマントや帽子はもちろんのこと、今年はお菓子をもらうための袋を自分で飾りつけをしました。大きなかぼちゃを張り付けたり、コウモリや月、星の形に切った紙を貼ったりして、一人ひとり違う個性豊かな袋ができました。

素敵な袋と黒いマント、魔女の帽子を身に付け、小竹の街を練り歩きました。道ですれ違うたくさんの方々がその素敵な仮装を見て、「かわいい～」とお褒めの言葉を頂き、子どもたちも嬉しそうでした。学童クラブ

周辺の八百屋さんや、デイサービスの方々にもご協力を頂いて、「trick or treat！」「お菓子をくれないといたずらしちゃうぞ！」と言いながら、袋いっ

ぱいにお菓子をもらって帰ってきました。

自宅に帰る時も、自分で作った仮装がとても気に入っている様子で、「おうちまで着て帰る～」「家族に見せるんだ～」と言いながら、ハロウィンの仮装を身に着けたまま自宅に帰る子もいました。



プレゼントを頂く



製作者の個性あるお菓子入れ袋



八百屋さんからお菓子を頂く

秋の会館生バス旅行

——小田原城と箱根

11月24日(日)、会館生24名と友人2名と元会館生1名、日本語ボランティアの先生とご家族3名、管理人夫妻2名、職員2名、旅行会社の担当者1名の35名で、神奈川県の小田原城と箱根関所に行ってきました。

当日は、朝7時30分に食堂に集合、5名程、体調を崩し不参加でしたが、全員、出発前には受付を済ませ、予定の8時に出発する事ができました。

行きは、ほとんど渋滞もなく順調に進んでいたのですが、海老名SAではなく、少し先の平塚PAで休憩を取りました。休憩後、会館生よりDVDの上映リクエストがありました。機械の調子が悪く、残念ながら鑑賞会はお休みになってしまったものの、到着する前には、雨はやみ、バスの右前方には、ラッキーな事に綺麗な虹を観る事が出来ました。

最初の目的地である小田原城には、ほぼ定刻通りに到着しました。外国人英語ガイドの方より案内図が配られ、一同、馬出門まで移動し、銅門、常盤木門迄、説明を聞きながら移動し、時間に少し余裕があったのでガイドの方のお勧めもあり、NINJA館の見学をする事になりました。会館生達は、やはり忍者に興味があるようで、とても楽しそうにされていて、特に、体を使って戦う忍者ゲームは、大盛り上がりでした。それから、本丸広場を通り、天守閣へと説明を聞きながら移動し、天守閣の前で記念撮影。その後、自由行



小田原城の前で

動となり、ガイドの方に集合時間を告げられ、各自、自由見学、日本のお城の中では、高さ第7位という5階建ての建物はとて大きく感じました。最上階の展望デッキからは富士山は見られなかったものの、相模湾の向こうに伊豆大島や伊豆半島も眺める事が出来ました。集合時間になり、ガイドの方からNINJAパッチをお土産に頂き、駐車場でお別れをし、次の目的地である湯本富士屋ホテルへと移動しました。

30分程で到着し、お待ちかねのランチタイム、貸し切りの広いスペースに友達同士で着席し、豪華なビュッフェを満喫しました。



豪華なビュッフェを満喫した後は…

満腹になった後は、山道をバスに揺られ苦しみながらも次の目的地、箱根関所へと到着。驚くほどの濃霧で、一面、真っ白な世界、とても幻想的でしたが、遊覧船は勿論、港も霧に覆われ、遠見番所に登ったものの芦ノ湖がどこ

にあるのかも分からない程で、残念ながら船は欠航となり、バスの出発時間迄、少しゆっくりと、見学、買い物をしました。夢の中にいるような感覚に陥ってしまったのか、集合時間になっても戻らない会館生が数名、濃霧の中、行方不明になってしまったのかと心配しましたが、ほどなくして見つける事が出来、一安心し、すぐに出発しました。



箱根関所見学

高速道路の途中で渋滞緩和の為、大型観光バスにも関わらず一般道を通行、ほどなくして再び高速道路に戻り、トイレ休憩は、海老名SAで10分程取りました。早朝起床と週末の疲れもたまっていたのか、熟睡している人がほとんどで、到着は、予定より少し遅れた19時10分。バスを降りる際に、参加の会館生達、ボランティアスタッフの方からも、「今日はとても楽しかったです。ありがとうございました。」と声を掛けて頂き、大変、嬉しく思いました。

今後にも楽しい思い出作りのお手伝いをして行ける様、邁進していきたいと思えます。

最後になりましたが、会館生のIan McGuiakさんから頂いた感想文をご紹介します。

On Sunday November 24th a cadre of Rikko Kaikan residents, along with a few others went on an annual bus trip outside of the comforts of Nerima. This particular trip was to Odawara and Hakone, which are about an hour and a half away. We gathered at 7:30 in the morning and promptly left at 8 o'clock. The bus ride was steady and without delay and we arrived at our destination in an expedient manner. We did stop once along the way at a rest stop to use the necessary accommodations. We arrived in Odawara around 9:30 am on what was a surprisingly sunny and warm day. We had a guided tour of the castle grounds before arriving at the main complex with its towering palisades, slanted roofs and stark white color that reflected the warm sunlight. We were able to ascend to the top of the castle and view the mountainous landscape. An hour and a half there and we were off again towards Hakone. Stopping for lunch we were treated to a buffet at a lavish hotel with a myriad of great food items. After summarily devouring our meals we set of again up the snaking mountain roads that offered splendid views of the sloping mountains wet with dew from the condensation and the frigid mountain air. We arrived at the Hakone checkpoint, known for being a stop for any travelers making their way to Edo. It was covered in a thick blanket of fog, obscuring most of the scenery. The unfortunately this dashed our hopes of attending the scheduled cruise or seeing Mount Fuji. We still made good use of our time there and overall it was a busy and eventful day. I would recommend going for yourself and seeing all that Odawara and Hakone have to offer.

Ian McGuiak (武蔵大学・アメリカ)



力行国際交流サロン

「茶道交流会」

10月19日(土)力行国際交流サロンで、毎年、お世話になっている立教大学の7名の茶道部員の皆様にご尽力頂き、恒例の「茶道交流会」を開催しました。

当日は、日本館の和室を会場に、サロンスタッフの空花様のご協力のもと、フランス4名、中国2名、アメリカ、インドネシア、ドイツ、ベトナム、香港、日本より各1名、合計12名の会館生が参加しました。



お茶会は、2回に分けて行われ、各回共、食堂で受付後、茶室に席入りする形で、進行しました。急病と急用で不参加の人、飛び入り参加の人もいましたが、茶道部員の皆様より心温かい

おもてなしを頂きました。

2回共、席入り直後は、少し緊張した空気が流れていましたが、お菓子とお茶を頂いた後からお茶を点てる体験の頃には、会場の雰囲気はとても和やかで、日本語、英語が飛び交い、楽しく交流する姿を拝見する事が出来、大変、嬉しく思いました。今回の参加者も、茶道や日本の文化に深く興味を持っている人ばかりで、退席後のアンケート記入が終わった後も、サロンスタッフに茶道や日本の文化や生活など、積極的に質問をしている姿が見られました。

今回、開催の際、お世話になった皆様へ、誌面にて、お礼をお伝えさせていただきます。今後共、温かいご支援の程、お願い申し上げます。又、皆様の益々のご活躍を



お祈り申し上げます。

最後になりましたが、立教大学茶道部の加藤綾華様より頂きました感想と、参加の会館生 Lei Chenyong さんより頂いた感想を、紹介させていただきます。

初めての経験で最初は緊張していましたが、皆さん茶道に興味を持ってくださり、楽しんで教えることができました。外国の文化も知ることができ、良い交流ができました。ありがとうございました。

加藤綾華 (立教大学 茶道部)

On October 19th, I had a really good time participating in the tea ceremony held by Rikkokai. As an exchange student studying in Tokyo, I'm always looking for opportunities to get immersed in the local culture and interact with local people. And this tea ceremony definitely lived up to all my expectations.

Assisted by a group of considerate local university students, we were taught how the ceremony should be held according to traditional Japanese etiquette. We first tried the tasty Japanese sweet, which then followed the matcha served by the students. We were also taught how to make matcha by ourselves. Learning to say "Osakini" and whether to turn the bowl clockwise or anti-clockwise at different times, we had a good time getting well into the wonderful Japanese tea culture.

After the ceremony, we chatted with the local students and got to know each other better. They told us how the Japanese tea culture developed and evolved, from which we got a lot of knowledge we'd never have known. We also introduced our own countries' culture, talking about the interesting experiences we had in Tokyo.

Overall, the tea ceremony was really well organized and offered us a great chance to know about Japanese culture. I'd like to extend my gratitude to Rikkokai and all the volunteer students to make this wonderful event possible. Thank you!

Lei Chenyong (早稲田大学・中国)

令和元年秋の叙勲 当会の村上悦榮理事長が 「旭日小綬賞」を授章

令和元年秋の叙勲の受賞者が、去る11月3日(日)の文化の日に発表され、当会の村上悦榮理事長が、永年の区議

活動の功績を讃え、この度、栄えある「旭日小綬賞」を授章致しました。

江古田キャンパスプロジェクト (まちがもっと面白くなるワークショップ)

—「江古田」に見つけるわたしの(学生の考える)3rd Place—

当力行会の位置する「江古田」地域には、この町を構成する3つの大学とその学生達の存在が欠かせない。特に、西武池袋線・江古田駅の利用者についてはその半分以上がそれら学生達であることが特徴的と言っても過言でありません。

しかしながら、近年その江古田駅の再開発終了後、古くから存在した店舗や市場が廃止され、どこにでも存在するファストフード店が目につく反面、江古田の街自体の活気が薄れ、多くの地元関係者がこの町の活性化のためにいろいろとイベントを仕掛けたり、講演会を催したりと、集客に余念がないのが現状です。

そのような現状を踏まえ、今回、この町のランドマークとなる江古田駅を運営する西武鉄道が主催者となり、駅周辺活性化を兼ねると共に、ここを利用する3大学の学生目線に立ち、「江古田」のまちがもっと面白く、かつ人々の集う街になるためにどのような取り組みを行えばよいのかをテーマとして、地元3大学と共催で「江古田キャンパスプロジェクト」のワークショップが去る8月7日(水)、まず最初に武蔵大学を会場に開催され、当日はおもに「まち」という参加者の第3の場所としての「江古田」の魅力を探り、関わることをテーマとしたワークショップにはこれら3大学からの学生約50名が参加、5グループに分かれてのフィールドワーク入る前にまちづくりや地域コミュニティーに既に関わるゲストスピーカーの発表とトークショーを傾聴した後、各々グループに

なつての江古田の街探検を行い、普段は駅と大学の往復のみで今までほとんど関わりがなかった「江古田」の街の魅力や気づきに、多くの参加した学生達から再発見とこれからもっと関わりを持ちたいという意見が出され、その魅力は、フィールドワーク後に各グループで作成された壁新聞に余すところなく掲示、発表された。特に、共通する感想としては「多文化」「新旧の混合」「地元意識」などがこの「江古田」の街の特徴であると学生達には捉えられていました。

なお、今回開催された「江古田キャンパスプロジェクト」はその後、デザインとウェブライター養成のワークショップが日大芸術学部で開催され、総括として後日、江古田駅構内に於いてそれらの結果報告や作品などが展示されることとなっています。

インターネットが余り普及していない時代と比較して、この江古田の街の存在が良くも悪くも変化したのではないかと、つまり、住んでみたり、直接経験するなどの関わりを持つことでの経験が、インターネットによりバーチャル経験が可能となったために、関わりを持っていると勘違いし、いざ街探検を試みたら予想以上の勘違いと出会いがあった、これが参加された3大学の学生さんの偽らざる感想ではなかったかと感じました。

「まちの魅力は、人との関わり」、そんな「江古田・小竹」のまちの活性化に当会としても大いに関わる必要と可能性を感じるワークショップでした。

(文責・田中)

日本力行会機関紙「力行世界」 定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立122年を迎えました。「日本民族の霊肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理念をさらに発展させ、“世界と日本の架け橋となる人材育成”“海外同胞との連携強化”などの実現を目標に、留学生宿舍・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎え、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境づくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価格の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資金不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたくお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流にご関心を抱かれている方々へのご紹介も合わせてお願いいたします。

末筆に成りましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。

敬具

令和元年12月15日発行 (学)日本力行会

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikko@rikkokai.or.jp

ホームページ

<http://www.rikkokai.or.jp>